

獨逸の超高速自動車路の一挿話

淡 路 生

時は千九百三十三年一月三十日この日に獨逸の全ゆる都市と村落には號外々々と號外賣子の鈴の音は鳴り行き渡つた。そこで人々は何にだろうと先きを競つて買つて見ると。

「ナチス内閣の成立……ヒットラー遂に宰相となる」

との大みだしの基にその顔觸れは左の如くであるとしてあつた。

首相ヒットラー、副總理兼プロシヤ統監パーベン、外相ノイラート、内相フリツク博士、軍部相ロンベルグ將軍、藏相クローヂツク伯、經濟相兼食糧農林相ブーゲンベルグ、労働相セルテ、遞信交通相リユーベナツハ、無任相兼普魯西内相ゲーリング。

とあつた。あゝ十四年の惡戰苦闘は遂に酬いられて、僅か

四十四歳にして始めてヒットラーは獨逸聯邦の宰相の椅子につくことが出來たのであつた。かやうにヒットラーが首相の印綬を帶ると先づ第一に解決せねばならぬ重大問題は首相官邸の前通りの道や其他の廣場にころがつてゐた。

夫れは當時街頭に溢れてゐる約九百七十萬と稱せらるる夥しい失業者の群れである。失業保險登錄失業者約六百二十八萬失業保險手當さへ貰らへぬもの約三百四十萬人である。これは丁度獨逸人口の約一割が失業してゐることになる。産業の基礎を恢復するためにも、亦財政の危急を救ふためにも、そうして國民生活の安定を計るためにも先づ何を置いてもこの破滅的な失業問題を解決して失業者を救濟せねばならぬ。これがヒットラーの先づ以ての腕試しして

ある。

そこで彼は取敢へず殆んど未曾有ともいふべき大土木事業を興して建築に、電氣に、瓦斯に、水道に住宅に、河川に、橋梁に、凡ゆる種類の土木事業が大規模に計畫され實施されたのであつた。しかしヒツトラーが失業救済事業として最も力を注いだのは自動車専用の超高速道路路網の完成であつた。

或る日の午後首相の官邸南側の一室にヒツトラーは古い黨員のフリッツ、ドット博士と向ひあつて何事か涉りに話し合つてゐた。

「夫れではあなたが萬事引受けてやつて呉れるだらうネ
い」
とヒツトラーの力強く念を押す聲が微かに聞へてゐる。

「いや首相が十分に御指導下さるなれば引受けてやつて
見ませう……」
とドット博士の聲も聞へる。

夫れから僅か一週間程経つか経たぬ間に、あの大規模の

獨逸自動車路局を設けられたのであつた。其後午後の七時頃からは定まつてヒツトラーとドット博士とは約二三時間程官邸の一室で大きなテーブルを挟んで、其の上に獨逸の大地圖を置いて定規で赤鉛筆で直線をひつぱつたり亦青鉛筆で曲線を描いたりしてゐたが、これが即ち超高速度の自動車路の主眼の設計であつた。

「これが出来上つたら我國の國土の面貌はすつかり變つて軍用にも、産業の發展にも、大きな役立ちをするのぢや……」

とヒツトラーとドット博士は語り合ひつゝ幾度か赤鉛筆と青鉛筆で二人は額を集めて線を引いては消し又引いたりして協議を續けるのであつた。

そうして出来上つたのは第一期計畫として實に延長五千キロに達する大道路網の建設計畫であつた。これに依ると各々幅員七・五米の復線で、その間には五米の芝生または並樹路をはさんであり、並車道の外側には幅二米の安全地帯があつて全道路の幅員は合計二十四米としたのである。

そうして驚くことには北方の平原地を走るものと、南方のバイエル地方の山岳地帯を走るものとの設計は何等違つてゐない同じ設計にしたのである。ここにヒットラーやドット博士のゑらいところが潜んでゐる。亦超高速自動車路網には交叉路は一つもない交叉する場合には必ず一方を橋架式に設計した。これは自動車は前方に何んの心配なくフルスピードで走つても差支ないやうにするためであつた。

「博士……この繁忙な時代は獨逸の生活は一時間に百哩にスピードアップをしなければならぬからネ……」と云ふと博士は只だうなすくのみである。全くヒットラー自身が、この超高速路の計畫者であると共に亦その推進者でもある。そこへ給仕が厳しい冬の頃でもあろうが濫かいコーヒーを二つ運んで來た。それを二人は飲みつつ計畫と設計との協議は續くのである。

「博士……こう定めたら早速着工せねばらんが……準備はどうかネ……」

「いや最早や凡ての準備は既に整ふてゐますと……」

かやうに何事に依らずヒットラーは物を定めると夫れに取りかかるとは全く電光石火である。既に夫れから二ヶ月に足ないうちにフランクフルト・アム・マイン郊外から工事を起すやヒットラー自身鉞をふるつて行を壯にした。そうして時々工事の進捗振りを見廻つて土木工夫に雇はれてゐる失業者の小屋の事までも行つて世話をしたのである。

かやうにして千九百三十六年一月には始めて三百軒の自動車路が使用されたが三十八年の末には既に三千軒の自動車専用道路が完成して公衆に開放されてゐる。そうして最初の五千軒の計畫は既に七千軒に擴張されたが後にオストリア、チェッコの併合によつてこの計畫は更に擴張されて現在では一萬五千軒以上の自動車路網が設計されてゐる。そうしてこの道路に附帯したる設備も實に至れり盡せりと云へるのである。自動車道路の沿線には或一定の距離を計つてホテルが建られてゐる。これは長距離に行くトラック搭乗者の便宜のためで一日でその目的地にまで達せられない運轉手や助手等はここで一泊する事が出来るやうに

なつてゐる。亦自動車道路の側に電話設備がある。夫れは疾走しつゝある自動車に用事のある人はその車の番號を途中のガソリン・スタンドに知らせると中央地滞の大きな黑板に「何某さん電話」と書きつけるのである。夫れ故に走つてゐる自動車の人も亦その自動車の搭乗者に用件のある時は双方から道側の所々に設備してある電話で話が取替されることになるのである。誠に便利至極といつてよい。

この大土木事業に要する經費は年々三億六千馬克に過ぎるのであるが、しかし實際の經費は一億六千馬克に過ぎないとのことである。……ヒットラーは「この大土木事業によつて失業者の數を減少せしめたことにより年に一億二千マルクの失業救濟費が節約出来る外に道路建造用の資材に對する課税によつて八千萬マルクの收入を得て、これを差引と實際は三分の一強でこの大工事が完成できることになる」と云つてゐるがこの超高速道路が現地の歐洲戰爭に際して軍事上經濟上どんなに多大に役立つてゐるかはここに語らないでも判り限つたことである。

ドット博士といふ人はこの大事業に適する人間を探出すことに妙を得てゐる人で全く天才的といつてよい位である。彼は將來の大土木技師を發見するために大學や工業學校や研究所を餘暇あれば廻つて歩く、そして自分の眼鏡に叶つた學生や研究生があるとその肩を軽く叩いて。

「後でわしのところへ訪ねて來給へ……」
と言ふそうして訪ねて來れば親切にその若者の將來の面倒を見る。かうして二十三四歳の若い土木技師が何千何萬といふ労働者を使つて何百萬マークの經費を監督しつゝ重要な築造工事を指揮し亦進捗せしめてゐるのである。

麥酒の本場ミュンヘンには宏麗な酒場は澤山あるがビュルガアブロイの酒場は比較的若い土木技師達の集まるところである。伯林とミュンヘンには時速百二十哩出しても心配がないと云はるる超高速自動車路がある。彼等は夫れに依つてここに時々來るのであろう。彼等若い技術者の話は寄るとさはるとドット博士を慈父のやうに慕つてゐることである。